

Oktaオーケストレーション アクティビティ パック – インストール ガイド

ガイド

(Eureka版リリースおよびそれ以降)

Okta Inc.
301 Brannan Street
San Francisco, CA 94107 USA

概要

ServiceNowオーケストレーション向けOktaアクティビティ パックは、ServiceNow管理者にOktaインフラストラクチャの様々な自動化オプションを提供します。ここに含まれるオーケストレーション ワークフロー アクティビティを使用して、OktaコントロールとアクティビティをServiceNow内のビジネス ワークフローに統合し、ITオペレーションをコントロールできます。OktaコントロールをServiceNowに埋め込むことで、ユーザーは馴染みのあるServiceNowサービス カタログからアクセスおよびアプリケーションを要求し、ITはServiceNowフレームワーク内から承認、ドキュメント化、および監査コントロールを利用してシームレスかつ自動的に応答できます。公開されているワークフロー アクティビティを使用すると、ほとんどまたは全くコーディングを行わずにOkta APIロジックを追加できます。

本書には一般的な顧客シナリオに基づくワークフローの例と説明が含まれていますが、このアクティビティ パックの真の能力は、顧客独自のワークフローでオーケストレーション アクティビティを使用し、Oktaとの統合を完全に制御できるようにすることです。管理者は、含まれている制御ポイント(および今後の拡張)を活用することで、既存および将来のワークフロー内でOktaを活用するために独創的な方法を探す必要があります。

このアプリを利用することで、Oktaをサービス指向ITアーキテクチャのアプリケーション エンタイトルメントおよび強制レイヤーにすることができます。ServiceNowはユーザーおよびIT動作の中央制御ハブとして機能しますが、その一方でOktaはセキュリティを強化し、アプリケーション アクセスおよび許可を適用し、ユーザーの生産性を向上します。

アクティビティ パックを活用したソリューションの例

Oktaアクティビティ パックでは、ServiceNow管理者はOktaでグループおよびユーザーを制御できます。OktaマスターグループはOktaでアプリケーションをユーザーに割り当てるプライマリ メソッドであり、この層でのコントロールは極めて強力です。Okta + ServiceNowの共同顧客は、このレベルのコントロールが役に立つ使用例がいくつもあると述べています。中でも、

● 新入社員のオンボーディング

新入社員の割り当てタスクを取り扱うServiceNowのワークフローが拡張され、Okta経由でアプリケーション プロビジョニングを含めることができるようになりました。営業担当者にとってラップトップのようなITアセット要求、バッジのような設備要求、およびSalesforceのようなアプリケーション アクセス要求がすべて1つのワークフローでバッチ処理されるようになりました。Okta管理者は、Oktaでのグループセットに一致するロールセットを確立し、Oktaアクティビティ パックが ServiceNowのワークフローで利用できるようになりました。

● ジョブ変更

このユースケースは基本的に新入社員のオンボーディングの使用例と同じです。ジョブ変更では新しいアプリケーションのセットを必要とすることが多いです。ServiceNowのワークフローはOktaでユーザーグループ メン

バーシップを操作し、アプリケーションアクセスレベルを変更するよう構築できます。

● セルフサービスのグループ メンバーシップ／セルフサービスのアプリ リクエスト

Oktaのグループ メンバーシップはServiceNowのカatalog項目に直接公開できます。ユーザーは特定のプロジェクトまたは許可変更の一環として、グループメンバーシップを要求できました。代わりに、管理者は直接グループ メンバーシップ アクティビティを使用してユーザーのセルフサービスによるアプリ要求をサポートします。ここで、Catalog項目は所定のアプリをリクエストするユーザーに公開され、そのリクエストの結果がグループ追加アクティビティ(またはアプリ未割り当てのグループ削除アクティビティ)をキックオフします。ServiceNowでこれらのリクエストとフルフィルメントを追跡することで、監査証跡とコンプライアンス追跡がはるかに容易になり、組織はセルフサービスの業務から利益を受けることができます。

● ユーザーの一時停止

ServiceNowは、ユーザー決定の中央レポジトリとして機能するよう求められることがよくあります。ユーザーは高リスクプロファイルの発展途上国に出張している可能性があります。ServiceNowのワークフローを利用して、標準Oktaライフサイクル操作を介したユーザーのアプリケーションアクセスを一時停止し、機密の企業資産を保護することができます。同様に、そのユーザーが通常業務に戻ったら一時停止を解除できます。ServiceNow内で、これらすべてのタスクを1つの場所から実行できることは、企業の管理者にとってリスクとコンプライアンス要件に対する迅速かつ容易なコントロールを可能にします。

あらゆるワークフローで使用されるサポート対象アクティビティで、これらすべてのシナリオが可能となり、管理者はOkta APIメソッドを直接呼び出すスクリプトの構築を懸念する必要はありません。

Oktaアクティビティ パック機能の説明

アクティビティ パック機能内のデータフローを理解することは、アーキテクチャに関する決断を行う際に役立ちます。Oktaアクティビティ パックはカスタム アクティビティ式をServiceNowオーケストレーションモジュールに公開します。これらのアクティビティは、ServiceNowとOktaとの間で情報を交換するビルトインデータベースを持ち、ServiceNowのワークフローからのOktaグループおよびユーザーの操作を許可します。

ワークフロー アクティビティがOkta APIと通信するために、サポートされる操作をすべてサポートするために、いくつかの依存関係を設定する必要があります。

- ServiceNowのユーザー (sys_user) とOktaユーザーの一貫したマッピングが必要です。このマッピングはsys_userテーブルに新しいフィールド (x_okta2_actpack_okta_id) を追加することで達成されます。以下に定義するメソッドを使用してOktaと同期すると、このフィールドに関連するユーザーのOkta IDが格納され、そのユーザー オブジェクトで実行されるすべてのアクティビティで利用できるようになります。デフォルトでは、ServiceNowユーザーからOktaユーザーへのユーザー検索はメールアドレスの値を使用して実施されます。
- Oktaでグループ関連の変更を実施するためには、ServiceNowはOkta IDと一緒に利用できるOktaマスター グループを認識する必要があります。

1. インストールの前提条件

- アクティビティ パックのインストール前に、ServiceNow Orchestrationプラグインがインストールされている必要があります。
 - https://docs.servicenow.com/bundle/istanbul-it-operations-management/page/product/orchestration/task/t_ActivateOrchestration.html
- ストアからアプリを取得します。これにより企業インスタンスにインストールすることができます。
 - https://store.servicenow.com/sn_appstore_store.do#!/store/application/78d76bbd0f1d2600299f06ace1050e20
- 企業がストアからアプリケーションをアクティベートすると、登録済みの企業インスタンスにインストールできるようになります。
- Oktaアクティビティ パックのインストール場所となるServiceNowインスタンスから、[System Applications(システム アプリケーション)] -> [Applications(アプリケーション)]モジュールを開きます。[Downloads(ダウンロード)]タブから、Oktaアプリケーションをインストールします。

2. 構成

ServiceNowストアからOktaアクティビティ パックを取得した後、基本的なセットアップが必要です。

1. Okta APITークンの取得

- a. スーパー管理者としてOktaにログインします
- b. 管理者アプリ(メインUIの右上にある[Admin(管理者)]ボタン)にナビゲートします
- c. [Security-API(セキュリティ-API)]にナビゲートします
- d. 新規トークンを生成します
 - i. トークンに名前を付けます。名前は参照用です。
 - ii. [Create Token(トークンを作成)]をクリックします。

- iii. トークンをメモ帳(または同様のアプリ)にコピーします。いったん[OK]をクリックしたら、このトークンを取得することはできません。トークンを紛失した場合は新しいトークンを要求する必要があります。

2. 管理者ロールのユーザーとしてログインしているServiceNowから、[Okta Activity Pack(Oktaアクティビティ パック)] -> [Okta Properties(Oktaプロパティ)]モジュールを開きます
 - a. フォームが編集可能でない場合は以下のメッセージが現れます:
「This record is in the Okta Orchestration Activity Pack application, but Global is the current application.(このレコードはOkta Orchestrationアクティビティ パック アプリケーション内にありますが、Globalが現在のアプリケーションです。)
To edit this record click here.(このレコードを編集するには、「ここ」をクリックしてください)」
「here(ここ)」のリンクをクリックします。これは、すべてのServiceNow認定アプリケーションの標準的なプラクティスである独自の保護対象アプリケーションスコープ内にあるOktaアプリケーションと関連しています。
 - b.
3. プロパティ フィールドをアップデートします:

- a. Okta APITークン : Oktaトークン作成からコピーしたトークン値を貼り付けます
- b. Okta APIバージョン : Oktaサポートから別途指示がない限り、デフォルト値“v1”のままにします
- c. Okta組織URL : OktaインスタンスのURL。例 : <https://company.okta.com>
- d. インポートするグループのOktaフィルター : デフォルトのフィルター値にしておくことを推奨します。このフィルターはOktaマスター グループのインポート中に使用されます。値が間違っているとOktaグループ アクティビティに関連する機能に直接影響します。
- e. Oktaグループレコードを無効にするまでの日数 : Oktaマスターグループの削除の反映を尊重するために、自動スケジュールされたインポートでこの日数の間グループが表示されない場合、OktaグループのServiceNow表現が無効になります。デフォルト値の“2”を使用することを推奨します。
- f. ロギング レベル : デフォルト値は“info (情報)”であり、最小限のトランザクション イベントデータがServiceNowアプリケーション ログに記録されます。詳細なトラブルシューティングのためには、値を“debug (デバッグ)”に設定できます。このようにすると、すべてのOktaアクティビティ パックのトランザクションで大量のアクティビティログが発生することにご注意ください。

実際のインスタンスでは慎重に使用し、トラブルシューティングが完了したら直ちに値を“info (情報)”に戻してください。

The screenshot shows the ServiceNow interface for configuring the Okta Activity Pack. The left sidebar contains a navigation menu with options like 'Okta Activity Pack', 'Okta Properties', 'Okta Groups', 'Okta Group Import Service', 'Contact Okta Support', 'Examples', and 'Catalog Items'. The 'Okta Properties' option is currently selected. The main panel, titled 'Okta Properties', contains a message 'Please edit your changes and press Save' and a section for 'Okta Activity Pack Properties'. This section includes several input fields: 'Okta API token, obtain the API token from Okta Security-API page' (with a masked value), 'Okta API version' (set to 'v1'), 'Okta organization instance URL' (empty), 'Okta filter to use when importing groups (default=type+eq+%22OKTA_GROUP%22)' (set to 'type+eq+%22OKTA_GROUP%22'), 'How many days to wait before an Okta group record is disabled if it's not seen during import' (set to '2'), and 'Logging level for Okta Activity Pack' (set to 'info'). A 'Save' button is located at the bottom of the form.

3. データの依存関係

前述したように、アクティビティ パックはユーザーおよびグループの両方のOkta IDデータに依存します。ServiceNowグループ レコード (sys_user_group) の使用との競合を避けるために、アクティビティ パックは新規テーブルを作成し、プロパティ ページで定義されたフィルターの条件を満たすOktaマスター グループに関するデータを格納します。

以下でServiceNowにインポートされ格納されるこれらのOktaメタデータの詳細を定義します。

Oktaマスター グループ

必要なOktaマスター グループ メタデータを保存するため、新規テーブル (x_okta2_actpack_okta_group) がプロビジョニングされています。このテーブルは、[Okta Activity Pack (Oktaアクティビティ パック)] -> [Okta Groups module (Oktaグループ)] モジュールからアクセスできます。このテーブルはOktaをマスターとするグループのみリスト化し、Active Directoryまたはその他のソース (O365あるいはBoxなど) をマスターとするグループはリスト化しません。OktaでOktaマスターグループがServiceNowからアプリケーションまたはポリシー割り当てを駆動することが期待されます。

このテーブルの自動入力には以下のコンポーネントが使用されます

- Okta Import Groups Scheduled Job - デフォルトでは、インスタンスのタイムゾーンで毎日午前6時にジョブが実行されます。[System Definitions (システム定義)] -> [Scheduled Jobs (スケジュールされたジョブ)] モジュールに進み、“Okta Import Groups” というジョブ名を検索することで頻度を変更できます。また、[Execute Now (今すぐ実行)] フォームボタンを使用することでいつでもジョブをジョブフォームから手動で実行できます。
- Okta Group Importサービス ステージング テーブル (x_okta2_actpack_okta_group_import) - スケジュールされたジョブが、変換マップで処理するためにインポートセットのステージングテーブルに自動入力
- Okta Group Import変換マップ - ターゲットOktaグループレコード (x_okta2_actpack_okta_group) の作成およびアップデートを管理する標準ServiceNowインポートセットの変換マップ

ユーザー属性

sys_user テーブルには、ユーザーのOkta IDを格納するために使用する新規フィールド (x_okta2_actpack_okta_id) があります。このIDはユーザーがOktaアクティビティで使用される前に自動入力済でなければなりません。サンプル カタログ項目では、Okta ID値を持たないユーザーがフィルターで除外され、カタログ変数で選択できません。新規カタログ項目を構築するか、他の方法でOktaアクティビティを利用する場合、“x_okta2_actpack_okta_id” 値を持つユーザーのみ使用するようにしてください。

4. Oktaから必要なデータを自動入力

最初のOktaマスター グループ [インポート](#)

スケジュールされたジョブ “Okta Import Groups” は、毎日午前6時に実行されるようスケジュールされています。いったんアプリケーション プロパティが設定されたら、このジョブを手動で実行する必要があります。

- [System Definition (システム定義)] -> [Scheduled Jobs (スケジュールされたジョブ)] モジュール一覧を開きます。
- Okta Import Groupsレコードを検索します。
- [Execute Now (今すぐ実行)] をクリックしてグループのインポートを開始します。
- 数分後、Okta Groupsモジュールを開き、グループレコードが作成されているか確認します。

Okta IDをServiceNowユーザー アカウントに追加

デフォルトでは、sys_userテーブルには“Get Okta ID” ビジネスルールがあり、ユーザー レコードがアップデートされ、Eメール値を持ち、まだOkta IDフィールド値が含まれていない場合、いつでもユーザーのIDを見つけるためにOktaでクエリが実行されます。このフィールドはユーザー テーブル リストやフォームビューには表示されません。値を確認したい場合はこのフィールドを手動で追加できます。

Oktaで関連付けられたユーザーを見つけるクエリは、[profile.email eq 'servicenow user email'] です。このルールを変更しないこ

とを推奨します。お使いのデータモデルに適合しない場合、このルールを無効にし、独自のルールを作成してOktaでクエリを実行することができます。

このルールはユーザー レコードが挿入されたりアップデートされた場合のみに実行されるため、はじめに一括更新オペレーションを実行する必要があることがあります。スケジュールされたジョブ“Okta Bulk User ID Update”を実行して、Eメール値を持つがServiceNowでOkta ID値を持たないすべてのユーザーをクエリできます。このスケジュール済みジョブは、実行をスケジュールされておらず、必要に応じてオンデマンド実行で使用されるべきです。

警告: APIは一度に600ユーザークエリまでに制限されています。アップデートが必要なユーザーが500人以上いる場合、Oktaサポートに連絡して別のスクリプトを要請してください。

5. 使用

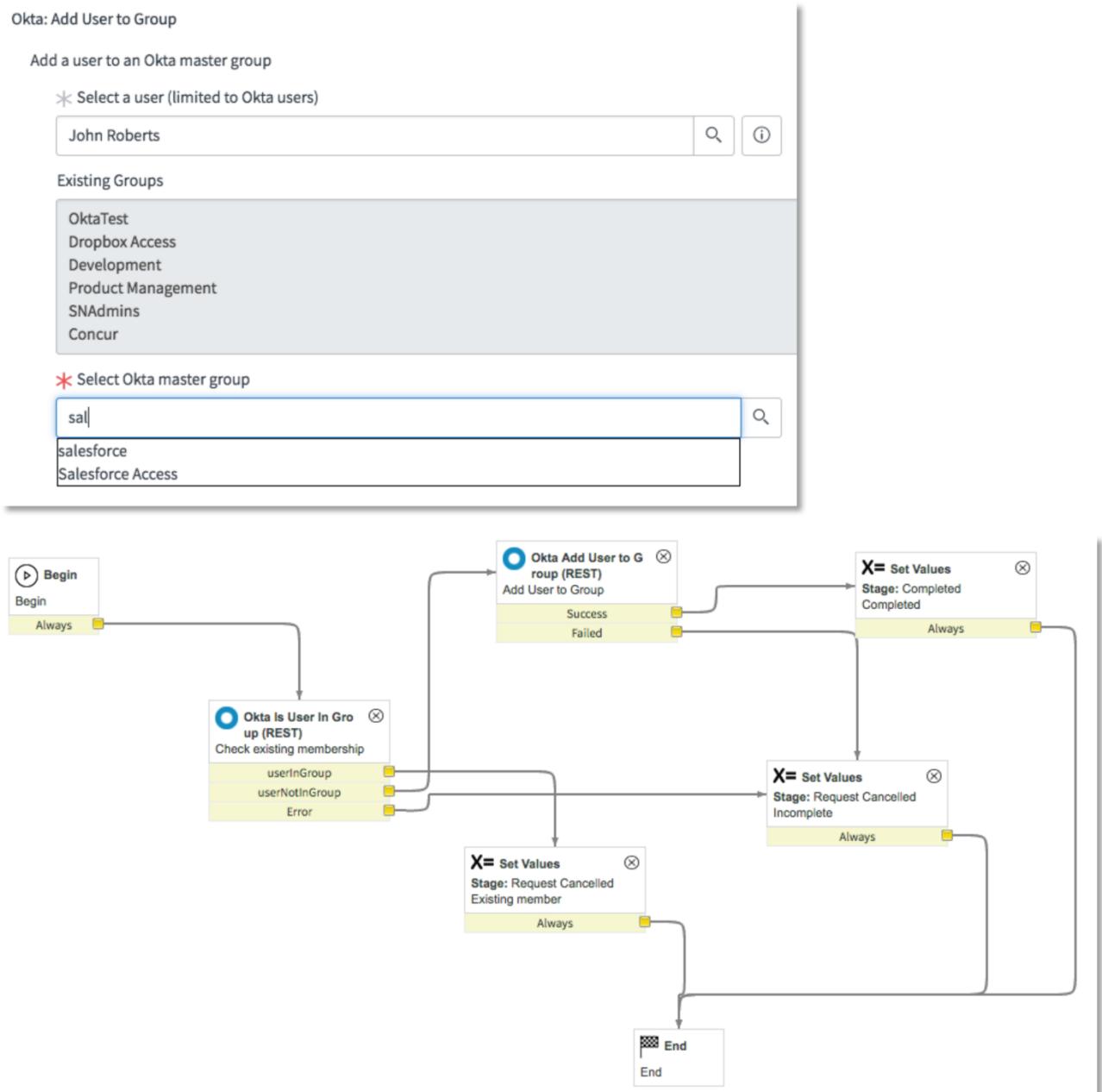
要件

- 含まれるサンプルカタログ項目とオーケストレーション アクティビティでは、ServiceNowユーザー (sys_user) およびOktaグループ (x_okta2_actpack_okta_group) が、一致するOktaレコードから得たIDで自動入力されたOkta IDフィールドを持つ必要があります。
- ServiceNowで値を表示／確認する場合、Okta IDをユーザー (sys_user) フォームとリストに追加する必要があります。このフィールドはデフォルトでは読み取り専用です。
- ServiceNowでユーザー作成またはアップデートの操作を行うと、OktaにServiceNowユーザーレコードでEメールの一致を使用してOktaを見つけるクエリをトリガーします。オーケストレーション アクティビティで管理できるのはOkta IDを持つユーザーのみです。
 - このクエリが成功するためにはメールアドレスが一致する必要があります。Oktaユーザー名がメールアドレスの形式でない場合もあります。この場合、専門サービスによるアシスタンスが必要になるため、Oktaに連絡して支援を求めてください。
 - 一部のServiceNowでのオペレーションは、sys_user テーブルの各レコードでアップデートイベントをトリガします。その場合、Oktaへの大量呼び出しが発生する可能性があります。個々のソースから一括でCSVまたはLDAPアップデートを行うよりは、Oktaを使用してユーザーのプロビジョニングを行うことを推奨します。

6. サンプルカタログ項目およびワークフローの使用

アクティビティ パックには、Oktaアクティビティを使用して利用可能な機能を実行するために、以下のサンプルカタログ項目およびワークフローが含まれています。これらのサンプルを現状のまま使用したり、変更したり、または独自のワークフローでOktaアクティビティを使用して独自のサンプルを構築できます。各ワークフローの詳細なレビューを示します。

- Okta: Add User to Group(ユーザーグループの追加) - Okta ユーザー (ServiceNow ユーザーにリンク) をOktaマスターグループに追加するリクエストおよびオーケストレーション



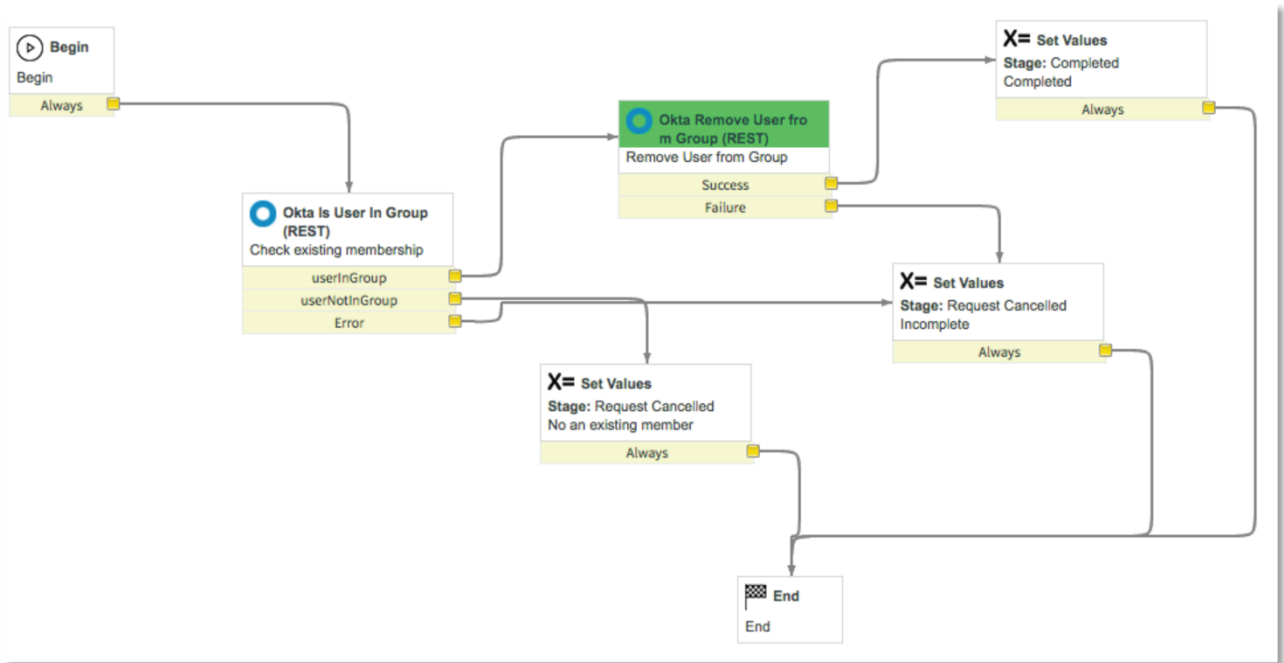
- 変数:
 - user - Okta IDを持つユーザーに制限されたsys_userを参照、デフォルトは現在のセッション ユーザー
 - group - アクティブなグループに制限された x_okta2_actpack_okta_groupを参照
 - existing_groupsおよびexisting_group_ids - ユーザーのグループ リストを追跡および表示
- クライアント スクリプト:
 - Get Okta User's Groups - ユーザー変数の変更時に、クライアント スクリプトがOktaにそのユーザーの既

存グループのリストを検索するクエリを実行します。ページにグループ名が表示され、既存グループが 'group' 変数の選択肢から削除されます。

o ワークフロー: Okta Add User to Group

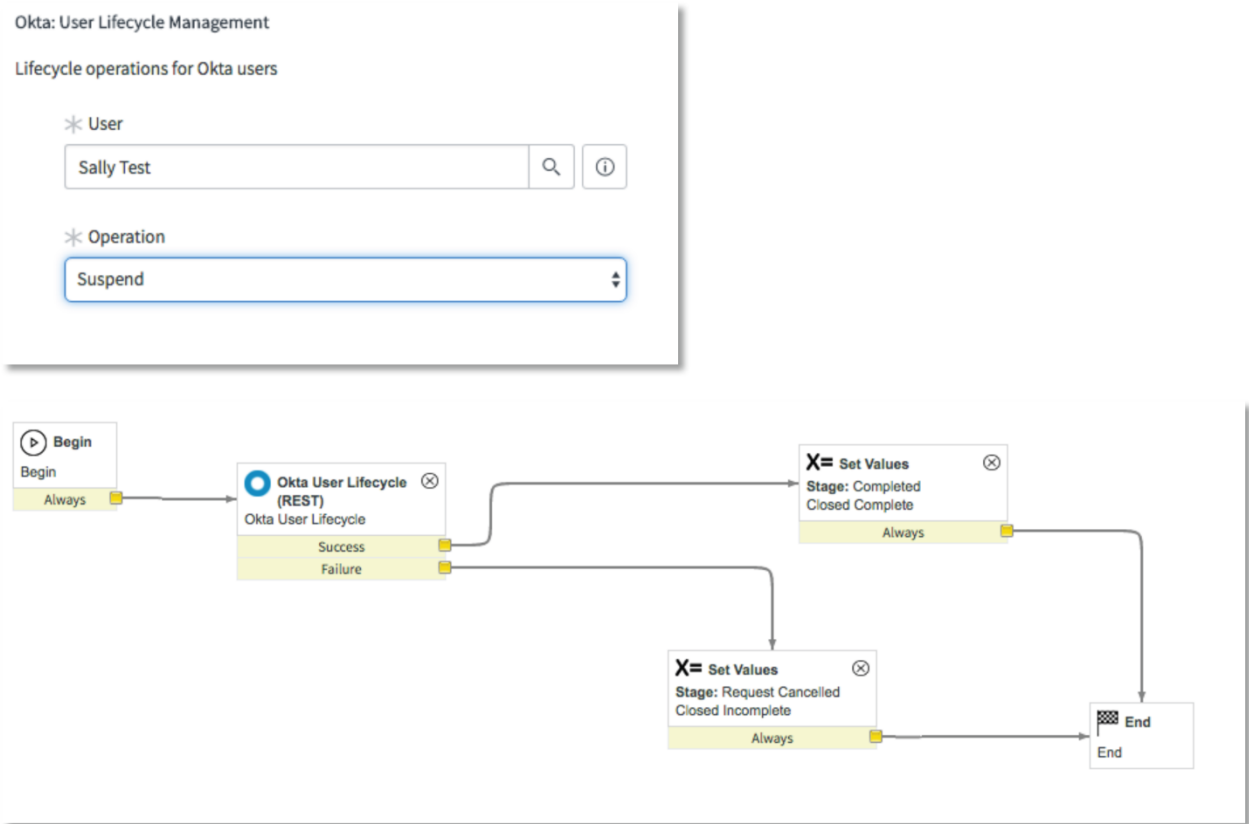
- アクティビティ: Okta Is User in Group – OktaグループおよびユーザーのOkta IDを取得し、Oktaで既存のグループ メンバーシップを確認します。
- アクティビティ: Add user to Group – OktaグループおよびユーザーのOkta IDを取得し、ユーザーをOktaグループに追加します。

- Okta: Remove User from Group - Okta ユーザー (ServiceNow ユーザーにリンク) をOktaマスター グループから削除する
リクエストとオーケストレーション



- 変数:
 - user - Okta IDを持つユーザーに制限されたsys_user を参照、デフォルトは現在のセッション ユーザー
 - group - アクティブなグループに制限されたx_okta2_actpack_okta_groupを参照
 - existing_groupsおよびexisting_group_ids - ユーザーのグループ リストを追跡および表示
- クライアント スクリプト:
 - Get Okta User's Groups - ユーザー変数の変更時に、クライアント スクリプトがOktaにそのユーザーの既存グループのリストを検索するクエリを実行します。ページにグループ名が表示され、既存グループが 'group' 変数の選択肢から削除されます。
- ワークフロー: Okta Add User to Group
 - アクティビティ: Okta Is User in Group - OktaグループおよびユーザーのOkta IDを取得し、Oktaで既存のグループ メンバーシップを確認します。
 - アクティビティ: Remove User from Group - OktaグループおよびユーザーのOkta IDを取得し、ユーザーをOktaグループから削除します。

- Okta: User Lifecycle - Oktaユーザー (ServiceNow ユーザーとリンク) でOktaライフサイクル アクションを実行するリクエストおよびオーケストレーション



- 変数:
 - user - Okta IDを持つユーザーに制限されたsys_userを参照、デフォルトは現在のセッション ユーザー
 - operation - Oktaユーザーのライフサイクル オペレーションをサポートします(詳細はOkta APIドキュメントを参照)。一般的なオペレーションはアクティベート、非アクティブ化、一時停止、停止解除、ロック解除、パスワードのリセットです。
- クライアント スクリプト:
 - なし
- ワークフロー: Okta User Lifecycle
 - アクティビティ: Okta User Lifecycle - OktaユーザーIDおよびオペレーション名を取得し、そのOktaユーザーでオペレーションの実行を試みます。

7. 利用可能なOktaアクティビティ

任意のワークフローから、[Packs(パック)]タブの下で利用可能なOktaアクティビティにアクセスできます。各アクティビティで公開された入出力を見ることができます。

The screenshot displays the 'Packs' tab in the Okta orchestration interface. At the top, there are tabs for 'Workflows', 'Core', 'Packs', 'Custom', and 'Data'. Below these is a search bar labeled 'Filter orchestration packs'. The main content area shows a tree view of 'Orchestration Packs'. Under 'Okta Inc', there is an 'Okta Orchestration Activity Pack' which contains four activities: 'Okta Add User to Group (REST) - v1', 'Okta Is User In Group (REST) - v1', 'Okta Remove User from Group (REST) - v1', and 'Okta User Lifecycle (REST) - v1'. A 'ServiceNow' pack is also listed. To the right, a detailed view of the 'Okta Add User to Group (REST) - v1' activity is shown, displaying its inputs and outputs.

Orchestration Packs

- ▼ **Okta Inc**
 - ▼ **Okta Orchestration Activity Pack**
 - ▶ **Okta Add User to Group (REST) - v1**
 - ▶ **Okta Is User In Group (REST) - v1**
 - ▶ **Okta Remove User from Group (REST) - v1**
 - ▶ **Okta User Lifecycle (REST) - v1**
 - ▶ **ServiceNow**

Okta Add User to Group (REST) - v1

- ▼ **Inputs**
 - ABC group_id
 - ABC user_id
- ▼ **Outputs**
 - ABC status_code
 - ABC error

アクティビティの詳細

すべてのOktaアクティビティは読み取り専用モードに設定されています。コア機能を変更する必要がある場合、新規カスタムアクティビティを作成し、Okta提供のアクティビティから特定の設定とスクリプトを手動でコピーできます。

出力された値はワークフロー データバス値を使用して他のアクティビティで利用できます。詳細については、ServiceNowワークフローのドキュメントを参照してください。

● Okta Add User to Group - OktaユーザーをOktaマスター グループに追加します

- 関連するOkta API: <https://developer.okta.com/docs/api/resources/groups.html#remove-user-from-group>
- (入力) group_id: OktaグループID。インポートされたOktaグループ、okta_idフィールドから取得できます
- (入力) user_id: OktaユーザーID。sys_user.x_okta2_actpack_okta_idフィールドから取得できます
- (出力) status_code: Okta APIリクエスト ステータスコード
- (出力) error: Okta APIリクエストからのエラー
- (条件) Success: status_code = 204
- (条件) Failed: (else条件)

● Okta Is User In Group - OktaユーザーがOktaグループのメンバーであるか確認

- 関連するOkta API: <https://developer.okta.com/docs/api/resources/groups.html#list-group-members>
- (入力) group_id: OktaグループID。インポートされたOktaグループ、okta_idフィールドから取得できます
- (入力) user_id: OktaユーザーID。sys_user.x_okta2_actpack_okta_idフィールドから取得できます
- (出力) userInGroup: trueまたはfalse。ユーザーがグループに存在するかどうか
- (出力) status_code: Okta APIリクエスト ステータスコード
- (出力) error: Okta APIリクエストからのエラー
- (条件) userInGroup: userInGroup == "true"
- (条件) userNotInGroup: userInGroup == "false"
- (条件) Error: (else 条件)

● Okta Remove User from Group - Oktaマスター グループからOktaユーザーを削除

- 関連するOkta API: <https://developer.okta.com/docs/api/resources/groups.html#remove-user-from-group>
- (入力) group_id: OktaグループID。インポートされたOktaグループ、okta_idフィールドから取得できます
- (入力) user_id: OktaユーザーID。sys_user.x_okta2_actpack_okta_idフィールドから取得できます
- (出力) status_code: Okta APIリクエスト ステータスコード
- (出力) error: Okta APIリクエストからのエラー
- (条件) Success: status_code = 204
- (条件) Failed: (else条件)

● Okta User Lifecycle - Oktaユーザーでユーザーのライフサイクルアクションを実行

- 関連するOkta API: <https://developer.okta.com/docs/api/resources/users.html#lifecycle-operations>
- (入力) user_id: OktaユーザーID。sys_user.x_okta2_actpack_okta_idフィールドから取得できます
- (入力) operation: ライフサイクルのオペレーション (Okta APIを参照)
- (入力) send_email: (任意) アクションがOktaからユーザーにEメールを送信するかどうかをtrue/falseで指示
- (入力) query_parm: (任意) クエリ パラメーター (Okta APIを参照)
- (出力) response: APIリクエストの応答文
- (出力) status_code: Okta APIリクエスト ステータスコード
- (出力) error: Okta APIリクエストからのエラー

- o (条件) Success: status_code = 200
- o (条件) Failed: Not Success

8. トラブルシューティング

API、URL、トークン、およびアクセス検証用の簡単なテスト

- Scripts(スクリプト) – Background(バックグラウンド)モジュールから以下のスクリプトを実行
var okta = new x_okta2_actpack.OktaRESTActivity();
var rest = okta.oktaRESTRequest("get", "users");
- “oktaRESTRequest response status:200”を確認するログステートメントが取得されます。これはAPIテストが成功したことを意味します。ステータスが200でない場合、出力を確認して追加の情報を探します。
- APITokenに問題がある場合、以下のような応答が返されます。
 - o response status:401, body:{"errorCode":"E0000011","errorSummary":"Invalid token provided"}

詳細なデバッグ ロギング

- Oktaプロパティページから、ロギング レベルを‘debug(デバッグ)’に設定します。
- [System Logs(システムログ)]->[Application Logs(アプリケーション ログ)]を確認してデバッグ詳細をリスト表示します。
- [System Logs(システムログ)]->[All(すべて)]を確認してデバッグ詳細をリスト表示します。

9. アプリケーション コンポーネント リスト - 補足

この情報はServiceNowアーキテクト向けの詳細リファレンスガイドとして提供されています。通常の使用では、変更または構成手順は必要ありません。

データモデル

新規テーブル

Okta Group Import (x_okta2_actpack_okta_group_import)

- 拡張元: sys_import_set_row
- 拡張可能: いいえ
- アプリケーション アクセス
 - アクセス元:
 - Webサービス経由: はい
 - 構成を許可: いいえ
 - オペレーション: 読み取り
- 列
 - Description(説明) - 文字列
 - ID (id) - 文字列
 - Name(名前) - 文字列
 - Type(タイプ) - 文字列
- ACLカウント

● 読み取り 書き込み 作成 削除

行	1	1	1	1
列	1	1	1	N/A

Okta Group (x_okta2_actpack_okta_group)

- 拡張元: N/A
- 拡張可能: いいえ
- アプリケーション アクセス
 - アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
 - Webサービス経由: はい
 - 構成を許可: いいえ
 - オペレーション: 読み取り
- 列
 - Active(アクティブ) - True/False
 - Description(説明) - 文字列
 - Last import (last_import) - 日付/時刻
 - Name(名前) - 文字列
 - Okta ID (okta_id) - 文字列
 - Type(タイプ) - 文字列
- ACLカウント

● 読み取り 書き込み 作成 削除

行	1	1	1	1
列	1	1	1	N/A

新規列

Okta ID (sys_user.x_okta2_actpack_okta_id) - 文字列

- ACLカウント

サーバー開発

ビジネスルール

- Get Okta ID sys_user (async: insert,update)

スクリプトに含まれる項目

- OktaUtils
 - 説明: var otkautils = new x_okta2_actpack.Okta_Utils(); otkautils.importGroups();
 - アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
- OktaAJAX
 - 説明: AJAX関数からOkta関連のクライアントスクリプトへ
 - アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
 - Client呼び出し可能スクリプト: ACL = Yesを持つ
- OktaRESTActivity
 - 説明: スクリプトまたはオーケストレーション アクティビティで使用するOkta RESTラッパー
 - アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ

スケジュールされたジョブ

- Okta Import Groups
 - 毎日 - 06:00:00
- Okta Bulk User ID Update
 - オンデマンド - 00:00:00

アクセス制御

ロール

- x_okta2_actpack.admin: Oktaアクティビティ パック管理者ロール
- x_okta2_actpack.user: Oktaアクティビティ パックのコンポーネントへのユーザーレベルのアクセス権

アクセス制御

- OktaAJAX client_callable_script_include:execute (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin,x_okta2_act pack.user)
- sys_user.x_okta2_actpack_okta_id record:read (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- sys_user.x_okta2_actpack_okta_id record:write (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group.* record:create (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group record:delete (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group record:read (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.user)
- x_okta2_actpack_okta_group record:write (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group.* record:create (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group.* record:read (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.user)
- x_okta2_actpack_okta_group.* record:write (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group_import record:create (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group_import record:delete (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group_import record:read (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group_import record:write (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group_import.* record:create (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)

- x_okta2_actpack_okta_group_import.* record:read (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)
- x_okta2_actpack_okta_group_import.* record:write (条件: No, スクリプト: No, ロール: x_okta2_actpack.admin)

プロパティ

- x_okta2_actpack.api_token=: Okta APIトークン。Okta Security-APIページからAPIトークンを取得 (password2)
 - Read: x_okta2_actpack.admin
 - Write: x_okta2_actpack.admin
- x_okta2_actpack.api_version=v1: Okta APIバージョン (文字列)
 - Read: x_okta2_actpack.admin
 - Write: x_okta2_actpack.admin
- x_okta2_actpack.deactivate_old_groups_days=2: インポート中に見つからなかったOktaグループのレコードを無効化するまでに待機する日数 (整数)
 - Read: x_okta2_actpack.admin
 - Write: x_okta2_actpack.admin
- x_okta2_actpack.group_import_filter=type+eq+%22OKTA_GROUP%22: グループのインポート中に使用するOktaフィルター (default=type+eq+%22OKTA_GROUP%22) (文字列)
 - Read: x_okta2_actpack.admin
 - Write: x_okta2_actpack.admin
- x_okta2_actpack.logging.verbosity=info: Oktaアクティビティ パックのログレベル (選択肢リスト)
 - Read: x_okta2_actpack.admin
 - Write: x_okta2_actpack.admin
- x_okta2_actpack.org_instance_url=: Okta組織インスタンスURL (文字列)
 - Read: x_okta2_actpack.admin
 - Write: x_okta2_actpack.admin

ナビゲーション

メニューおよびモジュール(デスクトップ)

- Oktaアクティビティ パック / Oktaプロパティ: URL (引数から:):
- Oktaアクティビティ パック / Oktaグループ: レコードのリスト: x_okta2_actpack_okta_group
- Oktaアクティビティ パック / Oktaグループ インポート サービス: URL (引数から:):
- Oktaアクティビティ パック / Oktaサポートに問い合わせ: URL (引数から:):
- Oktaアクティビティ パック / 例: 区切り
- Oktaアクティビティ パック / カタログ項目: レコードのリスト: sc_cat_item

サービス カタログ

カタログ クライアント スクリプト

- Get Okta User's Groups (onChange)
 - 説明:
 - 適用先: 項目: Okta: Remove User from Group
- Get Okta User's Groups (onChange)
 - 説明:
 - 適用先: 項目: Okta: Add User to Group

統合

インポート変換

- Okta Group Import
 - ソース: x_okta2_actpack_okta_group_import (x_okta2_actpack_okta_group_import)

- o ターゲット: x_okta2_actpack_okta_group (x_okta2_actpack_okta_group)

RESTメッセージ

- Okta Get Groups
 - o 説明: Oktaグループを取得するRESTメッセージの例
 - o アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
 - o エンドポイント:
 - o メソッド: get

ワークフロー

アクティビティ

- Okta Remove User from Group (REST) 実行スクリプト
 - o 説明: Oktaグループからユーザーを削除するアクティビティ
 - o アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
 - o チェックアウト有: false
- Okta User Lifecycle (REST) 実行スクリプト
 - o 説明: Oktaユーザーのライフサイクル管理オペレーション
 - o アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
 - o チェックアウト有: false
- Okta Add User to Group (REST) 実行スクリプト
 - o 説明: Oktaグループにユーザーを追加するアクティビティ
 - o アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
 - o チェックアウト有: false
- Okta Is User In Group (REST) 実行スクリプト
 - o 説明: ユーザーがグループに存在するか検証
 - o アクセス元: すべてのアプリケーション スコープ
 - o チェックアウト有: false

ワークフロー

- Okta Remove User from Group ()
 - o 公開済み: true
 - o チェックアウト有: false
- Oktaユーザーのライフサイクル (sc_req_item)
 - o 公開済み: true
 - o チェックアウト有: false
- Oktaがユーザーをグループに追加 (sc_req_item)
 - o 公開済み: true
 - o チェックアウト有: false

その他のアプリファイル レコード

- カタログUIポリシー: 既存のグループフィールドは読み取り専用 (catalog_ui_policy)
- カタログUIポリシー: 既存のグループフィールドは読み取り専用 (catalog_ui_policy)
- カタログUIポリシー アクション: existing_groups (catalog_ui_policy_action)
- カタログUIポリシー アクション: existing_groups (catalog_ui_policy_action)
- カタログUIポリシー アクション: existing_group_ids (catalog_ui_policy_action)
- カタログUIポリシー アクション: existing_group_ids (catalog_ui_policy_action)
- イメージ: okta_logo_sm.png (db_image)
- 変数: 既存のグループID (item_option_new)
- 変数: 既存のグループID (item_option_new)
- 変数: 既存のグループ (item_option_new)
- 変数: 既存のグループ (item_option_new)
- 変数: オペレーション (item_option_new)

- 変数: ユーザーを選択 (Oktaユーザーに限定) (item_option_new)
- 変数: ユーザーを選択 (Oktaユーザーに限定) (item_option_new)
- 変数: Oktaマスター グループを選択 (item_option_new)
- 変数: Oktaマスター グループを選択 (item_option_new)
- 変数: ユーザー (item_option_new)
- 質問の選択肢: アクティブ化 (question_choice)
- 質問の選択肢: 非アクティブ化 (question_choice)
- 質問の選択肢: パスワード期限切れ (question_choice)
- 質問の選択肢: 要素リセット (question_choice)
- 質問の選択肢: パスワードリセット (question_choice)
- 質問の選択肢: 一時停止 (question_choice)
- 質問の選択肢: ロック解除 (question_choice)
- 質問の選択肢: 停止解除 (question_choice)
- カテゴリ: Okta (sc_category)
- 利用可能なカテゴリ: 'x_okta2_actpack.user' ロールを持つOktaユーザー (sc_category_user_criteria_mtom)
- カタログ項目: Okta: ユーザーをグループに追加 (sc_cat_item)
- カタログ項目: Okta: ユーザーをグループから削除 (sc_cat_item)
- カタログ項目: Okta: ユーザーのライフサイクル (sc_cat_item)
- カタログ項目カタログ: サービス カタログ.Okta: ユーザーをグループに追加 (sc_cat_item_catalog)
- カタログ項目カタログ: サービス カタログ.Okta: ユーザーをグループから削除 (sc_cat_item_catalog)
- カタログ項目カタログ: サービス カタログ.Okta: ユーザーのライフサイクル (sc_cat_item_catalog)
- カタログ項目カテゴリ: Okta.Okta: ユーザーをグループに追加 (sc_cat_item_category)
- カタログ項目カテゴリ: Okta.Okta: ユーザーをグループから削除 (sc_cat_item_category)
- カタログ項目カテゴリ: Okta.Okta: ユーザーのライフサイクル (sc_cat_item_category)
- 利用可能なカタログ項目: Okta: ユーザーをグループに追加.'x_okta2_actpack.user' ロールを持つユーザー (sc_cat_item_user_criteria_mtom)
- 利用可能なカタログ項目: Okta: ユーザーをグループから削除.'x_okta2_actpack.user' ロールを持つユーザー (sc_cat_item_user_criteria_mtom)
- 利用可能なカタログ項目: Okta: ユーザーのライフサイクル.'x_okta2_actpack.user' ロールを持つユーザー (sc_cat_item_user_criteria_mtom)
- システム プロパティ カテゴリ: Oktaアクティビティ パック (sys_properties_category)
- HTTPヘッダー: 権限付与 (sys_rest_message_fn_headers)
- HTTPヘッダー: 権限付与 (sys_rest_message_headers)
- HTTPヘッダー: コンテンツタイプ (sys_rest_message_headers)
- スコープ スクリプト アクセス: AbstractAjaxProcessor (sys_scope_script_access)
- スコープ スクリプト アクセス: JSON (sys_scope_script_access)
- フォーム セクション: x_okta2_actpack_okta_group (sys_ui_section)
- スタイル: x_okta2_actpack_okta_group (sys_ui_style)
- スタイル: x_okta2_actpack_okta_group (sys_ui_style)
- 含まれるロール: x_okta2_actpack.user.x_okta2_actpack.admin (sys_user_role_contains)
- ユーザー条件: 'x_okta2_actpack.user' ロールを持つユーザー (user_criteria)